

## 一人ひとりの「わかる」に向けて

### 令和5年度開始の新しい川崎市学習状況調査結果の分析と今後の取組をお知らせします

令和5年4月に川崎市立小中学校の小学校4年生から中学校3年生までを対象に実施した「新しい川崎市学習状況調査」の調査結果の分析と今後の取組をまとめました。各学校では校内研修を通して、各学校の児童生徒の実態に応じた手立てを研究したり、GIGA端末を活用したりしながら、授業改善や学習改善に取り組んでおります。なお、本資料には調査結果の概要版を掲載いたします。あわせて、詳細版を本日、川崎市総合教育センターのホームページに公表いたします。

## 1 調査内容と結果の分析について

### ○時期、対象、調査内容

時期：令和5年4月11日（火）～14日（金）

対象：小学4年生～中学3年生の6年間

小学校調査内容：国語、算数、学習意識調査

中学校調査内容：国語、社会、数学、理科、英語、学習意識調査

### ○調査結果の分析

#### 「4層分析」

4層分析は、川崎市内の受検者を、教科調査の結果で並べ、上位から25%ずつをA～D層の4層に分けて分析する手法です。教科の平均正答率に加え、層ごとの平均正答率が分かるため、**教科調査における集団内の各層の開き具合や、学習意識調査における層ごとの特徴等がわかる**ようになります。

### ○調査結果の経年比較

#### 「同じ集団の比較」

調査問題はIRT（項目反応理論）に基づく問題であるため、従来のテスト評価方法では困難だった「異なる問題での結果の比較」ができるようになります。**来年度からは、同じ集団の経年の比較（例えば「令和5年度の小4」と「令和6年度の小5」の比較）が可能**になります。今年度の取組を踏まえつつ、より実態に即した授業改善や学習改善の手立てを行ってまいります。

## 2 教育長コメント

今回の調査結果から、児童生徒の学習状況について、これまで以上に詳しく可視化されました。このことにより、教員が経験的に捉えていたことが可視化され、データに基づいた様々な手立てを行うことができる、効果的な仕組みが構築できたと考えております。今後、経年データを蓄積した上で、データ活用方法などをしっかりと確立し、一人ひとりが「わかる」を実感できるよう取組を進めてまいります。

### 3 調査結果の概要と分析

#### (1) 4層分析について

【4層分析について】※令和5年度から導入  
教科調査の4層分析は、川崎市内の受検者を、教科ごとに調査結果の高い者から並べ、上位から25%ずつをA～D層の4つの層に分けたもの。また、意識調査の4層分析は、小は2教科、中は5教科の合計点で並べ、上位から25%ずつをA～D層の4層に分けたもの。数値はA～D層のそれぞれの平均正答率を示している。

【4層分析パターン判定について】※令和5年度から導入  
パターンⅠ…A層とB層の差が一番大きい。  
パターンⅡ…B層とC層の差が一番大きい。  
パターンⅢ…C層とD層の差が一番大きい。

A層とD層の平均正答率の差が、50ポイント以上ある場合、層ごとの差の違い(層の間が一番離れている部分)により、右の3つのパターンで、表の「パターン判定」の欄に示される。

#### (2) 表の見方について

各学年の市全体の平均正答率	社会の平均正答率	学力層別の社会の平均正答率				A-D層の差	パターン判定
		A層	B層	C層	D層		
中1	52.3	76.9	58.5	45.8	29.7	47.2	
中2	48	73.7	54.1	39.9	24.5	49.2	
中3	52.9	80.1	61.1	44.5	25.7	54.4	I

層ごとの平均正答率

青枠は良かったところ、赤枠は課題として捉えているところ

A層とD層の差が50ポイント以上ある場合、マスに色がつき、パターン判定が示される

#### (3) 小学校の結果と分析

##### 【小学校 国語】

国語の平均正答率	学力層別の国語の平均正答率				A-D層の差	パターン判定
	A層	B層	C層	D層		
小4	72.6	93.2	82.3	70.4	44.7	48.5
小5	70.9	92.2	80.2	66.8	44.5	47.9
小6	70.6	90.3	78.6	66.9	46.7	43.6

##### 【小学校 算数】

算数の平均正答率	学力層別の算数の平均正答率				A-D層の差	パターン判定	
	A層	B層	C層	D層			
小4	69.3	91.1	79.5	66.7	39.8	51.3	Ⅲ
小5	64.6	89.6	75	59.6	34.2	55.4	Ⅲ
小6	62.7	90.9	74.1	55.5	30.2	60.7	Ⅲ

#### ○A層の正答率は約90%

A層の正答率に着目すると国語、算数ともに約90%である。

#### ●算数第6学年のD層は30.2%

国語、算数ともにA層とD層の間に40ポイント以上の差がある。特に、算数の第6学年の差は60.7ポイントで、D層の正答率は30.2%である。

#### (4) 中学校の結果と分析

##### 【中学校 国語】

国語の平均正答率	学力層別の国語の平均正答率				A-D層の差	パターン判定
	A層	B層	C層	D層		
中1	71.3	91.4	79.9	67.6	46.4	45
中2	74	91.7	82.1	71.4	50.8	40.9
中3	73.1	91	80.7	70.1	50.7	40.3

##### 【中学校 社会】

社会の平均正答率	学力層別の社会の平均正答率				A-D層の差	パターン判定	
	A層	B層	C層	D層			
中1	52.3	76.9	58.5	45.8	29.7	47.2	
中2	48	73.7	54.1	39.9	24.5	49.2	
中3	52.9	80.1	61.1	44.5	25.7	54.4	I

##### 【中学校 数学】

数学の平均正答率	学力層別の数学の平均正答率				A-D層の差	パターン判定	
	A層	B層	C層	D層			
中1	67.3	91.5	78	63	36.9	54.6	Ⅲ
中2	50.4	78.3	59.8	42.8	20.9	57.4	Ⅲ
中3	49.5	81.3	60	40.5	16.3	65	Ⅲ

##### 【中学校 理科】

理科の平均正答率	学力層別の理科の平均正答率				A-D層の差	パターン判定	
	A層	B層	C層	D層			
中1	60.9	83.6	68.7	55.6	35.7	47.9	
中2	51.7	76.9	59.2	44.1	26.6	50.3	I
中3	60.9	85.9	70.1	55.4	32	53.9	Ⅲ

【中学校 英語】

	英語の平均正答率	学力層別の英語の平均正答率				A-D層の差	パターン判定
		A層	B層	C層	D層		
中1	75.5	91.8	81.4	72.6	56	35.8	
中2	64.6	93	76.2	55.6	33.6	59.4	Ⅲ
中3	63.8	92.6	76.8	55.5	30.2	62.4	Ⅲ

○国語・英語のA層の正答率は90%を超える。

A層の正答率に着目すると、国語、英語は90%を超えている。

●D層の正答率は40%を下回る。

国語を除いた4教科のA層とD層の差は、学年を追うごとに大きくなっている。また、多くの学年・教科でD層の平均正答率が40%を下回っている。特に、数学の第3学年の差は65ポイントで、D層の正答率は16.3%である。

(5) 意識調査に関する分析結果の概要

※表の値は、質問に対する肯定的な回答（「よくわかっている」「まあわかっている」）をした児童生徒の割合（単位：%）  
・教科の理解度「あなたは、次の教科の授業が、どれくらいわかっていますか。」

【小中 5教科】

	国語	社会	数算 学数	理科	英語
小4	86.3	81.2	84.3	90.4	
小5	86.6	83.5	78.6	89.8	
小6	87.4	85.6	73.7	87.7	
中1	79.7	68.8	69.6	71.4	66.2
中2	81.9	62.9	59.6	63.3	66.3
中3	79.5	68.3	63.9	65.6	60.3

【小中 国語】

	肯定的な回答をした児童生徒の割合	学力層別の肯定的な児童生徒の割合				A-D層の差
		A層	B層	C層	D層	
小4	86.3	95.2	90.7	86	73.4	21.8
小5	86.6	96.7	92.1	86.2	71.3	25.4
小6	87.4	97.6	93.2	86.3	72.8	24.8
中1	79.7	93.3	86.3	77.2	62.5	30.8
中2	81.9	95	90.1	80	63.1	31.9
中3	79.5	92	85.5	78.6	62.3	29.7

【小中 算数・数学】

	肯定的な回答をした児童生徒の割合	学力層別の肯定的な児童生徒の割合				A-D層の差
		A層	B層	C層	D層	
小4	84.3	96.2	91.5	84.2	65.3	30.9
小5	78.6	97	89.7	75.9	51.9	45.1
小6	73.7	98	88.8	67.5	40.6	57.4
中1	69.6	93.7	82.8	63.2	38.8	54.9
中2	59.6	92	74.3	49.5	23.6	67.4
中3	63.9	92.4	76.8	57.4	29.5	62.9

【中 英語】

	肯定的な回答をした生徒の割合	学力層別の肯定的な児童生徒の割合				A-D層の差
		A層	B層	C層	D層	
中1	66.2	88.4	75.4	59.9	41.5	46.9
中2	66.3	95	81.3	59	30.5	64.5
中3	60.3	92.7	76.2	49.3	23.1	69.6

○A層は約90%が「わかる」を実感

小4から中3までのA層に着目すると、肯定的な回答は約90%であり、大きな変化は見られない。

●D層の肯定的な回答は減少傾向

小4から中3までのD層に着目すると、肯定的な回答は学年とともに減少傾向にある。

・学習に取り組む態度に関する児童生徒の意識  
「わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。」

・学習の理解に関する児童生徒の認識  
「授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方も一緒に考えている。」

	肯定的な回答をした児童生徒の割合	学力層別の肯定的な児童生徒の割合				A-D層の差
		A層	B層	C層	D層	
小4	76	83.8	78.4	74.6	67.1	16.7
小5	73.2	85.4	77.1	67.6	60.3	25.1
小6	71.1	86.1	75.8	66.8	55.9	30.2
中1	70.6	82.5	74.3	68.1	57.5	25
中2	61.9	81.3	65.4	55.9	45	36.3
中3	63.6	84	69.4	58.4	42.7	41.3

○A層の肯定的な回答は80%を超える。

●D層の肯定的な回答は減少傾向

小4から中3までのA層に着目すると、肯定的な回答は80%を超えている。

小4から中3までのD層に着目すると、肯定的な回答は学年とともに減少傾向にある。特に、「わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している」では、中3では42.7%となっている。

(6) 調査結果から見てきた成果 (○) と課題 (●)

【教科に関する分析結果から】

- A層は、国語(小)、算数、国語(中)、英語については正答率が約90%であり、学習内容が確実に定着している。
- D層の正答率の多くは40%を下回り、A層とD層は学年を追うごとに差が開く傾向にある。
- D層は、前年度までの学習内容の定着が不十分なまま新たな学習内容に進む状況が考えられる。

【意識調査に関する分析結果から】

- 理解度において、A層は、どの学年においても約90%が「わかる」を実感している。
- D層を見ると、肯定的な回答は減少傾向にある。
- D層は、「わかる」を実感できていないことから、問題の正答率が低く、学習の定着が不十分であると考えられる。
- A層は、わからないことは努力し、理由や考え方にも着目している。
- D層は、わからないことを諦めてしまい、理由や考え方に着目できていない傾向がある。

D層の児童生徒に着目しつつ、全ての児童生徒が「わかる」を実感できる授業の実現を目指して  
次の3つの手立てを重視して、学校の取組を支援してまいります。

## 4 今後の取組

### (1) 調査結果の分析に基づく授業改善の視点

調査結果の分析の結果、A～D層の特徴を踏まえ、「全ての児童生徒が『わかる』を実感できる授業の実現」を目指して、次の取組を重視します。

#### (1) 「何がわかっていて、何がわかっていないか」について、児童生徒が自覚できるようにする。

- |              |                       |
|--------------|-----------------------|
| ① 既習の活用(見直し) | ・「わからない」、「困った」を大切にする。 |
| ② 理由や考え方に着目  | ・「どうして」「なぜ」を大切にする。    |
| ③ 振り返りの充実    | ・「そうか」「なるほど」を大切にする。   |

#### (2) わからないことに対して諦めず、粘り強く取り組むために、ねらいを明確にしたペア学習やグループ学習をこれまで以上に大切にする。

- |               |                         |
|---------------|-------------------------|
| ① 題材、課題に向き合う。 | ・見る視点を持てるようにする。         |
| ② 自分の考えを持つ。   | ・解決するための手段や方法を持てるようにする。 |
| ③ 友達と解決する。    | ・「わかった」という実感を持てるようにする。  |

#### (3) 子どもが自分の課題や苦手分野を克服するために、いつでもGIGA端末等を活用して学習に取り組める環境を整備する。

- |               |                       |
|---------------|-----------------------|
| ① 児童生徒の自発的な取組 | ・自分自身の課題把握と学習意欲の醸成    |
| ② 保護者、家庭との共有  | ・家庭学習の改善、充実           |
| ③ GIGA 端末の活用  | ・学校や家庭で端末内の学習ソフトなどの取組 |

### (2) 今後のスケジュール

- |             |  |
|-------------|--|
| ○令和5年11月15日 | 令和5年度川崎市学習状況調査報告 詳細版の公表  |
| ○令和6年2月頃まで  | 令和6年度川崎市学習状況調査実施に向けた調整 等   |
| ○令和6年3月     | 川崎市学習状況調査担当者説明会<br>・令和5年度の各学校の取組の周知<br>・令和6年度川崎市学習状況調査実施に向けた説明 等 |
| ○令和6年4月     | 令和6年度川崎市学習状況調査の実施  |
| ○令和6年7月頃から  | 調査結果の分析<br>・令和6年度の結果分析<br>・同一集団の経年変化分析 等                         |

問合せ先

川崎市教育委員会事務局総合教育センター

カリキュラムセンター みやじま うのき 宮嶋・鵜木

電話044-844-3720